

## 50歳になった息子が生まれた頃の思い出

前川 博和

中秋の名月〈満月〉を見ること出来ましたか？

昨日は9月20日、航空の日だったのですが、何の話題にもならなかったですね。

実は、9月20日は私の息子の誕生日でして、私が羽田空港に勤務の時、横浜で生まれ、彼もこの日で、50歳になりました。大過なく50年も生きてくれて嬉しく思っています。私の妻は、この息子の誕生の2年ほど前に早産で子供をなくし、失意の結果、その1年後に妊娠が分かったとき、今度は早産などを防止する手術をして安産を目指しました。あの頃は、出産する病院を探すのも容易でない時代で、妊娠が分かった時点で出産の予約をしなければならぬ有様で、彼女もすぐに大阪の豊中病院に2月ごろだったと思いますが9月の出産予定日の予約をとりました。何しろ前の子供を流産してしまっていたので、大事に大事に過ごしていました。ところが、4月に、私が急に東京に転勤することになりました。そのころ私は労働組合と戦っている最中で、彼らは私が困るであろうことを知っていて、策略を行っていることは疑いましたが、私は官に対してこのような事情を告げて許しを請うようなことはできませんでしたので、妻も大きくなったおなかを抱え、その後面倒を見てくれるお医者さんが東京に居るかどうかもわからないが泣き言は言わずついて来てくれました。移動したのは5月の連休の間でした。労働組合の連中には私が困っていることは絶対に見せないようにしました。私の実情が分からせることは、彼らに上手くいったとして喜ばせるだけだと思ったからです。幸い、私に同情してくれる先輩がいて、羽田の労働組合は宿舎はないとしていたのですが、彼は私たちに横浜の港湾局の宿舎を世話してくれました。横浜の宿舎に入って以来、妻はお産をさせてもらえる産婦人科を探し回りました。やはり拾う神はいるんですね、横浜の小さな産婦人科がお産をさせてくれることになりました。かくして、その4か月後の9月20日に息子は、労働組合のいじめを跳ねのけ、無事誕生しました。

労働組合の連中は、私の困ることを押し付けてくるので、息子を直接ねらっている訳ではないのですが、彼は受難の受け皿になってしまいます。それから6年間ばかり、私は羽田のターミナルレーダー自動化に懸命で、息子と遊んでやったりする暇もなかったのですが、彼は順調に育ち、大田区立の小学校に入学しました。私は羽田に在勤中、効率的で安全な航空管制の実現に力を尽くしていたので、自動化反対を標榜する労働組合(全運輸)からは様々の嫌がらせを受けました。最後のころには、管制技術官と称する連中が、管制官の使用する機材は自分たちのもの(自分たちが管理する政府資産)であるとして、とりわけDSS(データ・システム・スペシャリスト)がコンピューターを使用することに邪魔をするようになり、それに反対し、彼らは単にメンテナンスであると主張する私との関係は陰悪になってきました。両者を部下に持つ(管制官出身の)管制部長はお困りになったのでしょいうね。労働

組合は当然のように管制自動化反対で、それに逆らう私に罰を与えたかったのでしょうか、私の困ることを探して、それを実行するよう管制部長に迫ったのです。

私の息子は嬉しい1年生になって、喜んで学校に通い始めた4月の初め、この管制部長は私に沖縄那覇に、5月1日付で、移動を命じたのです。私は子供のことを理由にしませんでしたが、管制部長に抗議し、理由を聞きましたが、彼は「分かっているだろう」と一蹴しました。分かってはいましたが、またもや私の息子は小学校入学からまもなく、転校することになってしまいました。労働組合は私の困ることをよく知っています。

その息子が、50歳になって、過去を振り返り、彼には悪いことをしてしまったかな？とすこしセンチメンタルになってしまいました。